

平河町通信

令和4年
7月15日号
第4号

発行
内外政治
研究G

追悼 安倍晋三元首相



遺志を継ぎ憲法改正実現へ 悲しみを乗り越えてー

安倍晋三元首相が7月8日、奈良市での参院選の応援演説中に銃撃され亡くなりました。

あまりにも突然の悲劇に、私たちは今も悲しみと憤りを抑えることができません。

安倍元首相は平成18年(2006)年の第一次内閣で「戦後レジームからの脱却」を説き、戦後レジームを「憲法を頂点とした行政システム、教育、経済、雇用、国と地方の関係、外交・安全保障などの基本的枠組み」であると定義しました。平成24年(2012年)か

誰がこの悲劇を引き起こしたのか？

らの第二次内閣では、同じ思いを「日本を取り戻す」「美しい国」というキャッチフレーズに託しました。

左派イデオロギーから脱却できないマスコミからの中傷を浴びながらも、特定秘密保護法や安

評論家の八幡和郎さんがウェブサイトに「アゴラ」にこう書いています。「特定のマスコミや有識者と言われる人々が、テロ教唆と言われても仕方ないような言動、報道を繰り返して、暗殺されても仕方がないという空気をつくりだした」。

いわゆる「アベ叩き」は、ネット上に限らず異常でした。最近の日本社会には「強い人には何を言ってもかまわない」という乱暴な風潮が蔓延しています。

警備に話を転じますと、警察のお粗末な護衛

全保障関連法を成立させ、今まさに憲法改正が現実のものとして動き出すとしています。男系男子孫による皇位継承を守るための「皇族養子案」が政府の有識者会議の報告書に書き込まれたのも安倍元首相の強い思いがあったからでした。

悲しみと憤りは消えることはありませんが、ここで立ち止まるわけにはいきません。私たちには、安倍元首相の志をその先へと継いで結実させる責任があるのです。

態勢は責められるべきですが、他にも問題があります。3年前の参院選で安倍首相(当時)に「アベやめろ」などとヤジを飛ばして警察に排除された男女が訴えた裁判で、札幌地裁は今年3月、北海道に損害賠償を認める判決を言い渡しました。警官の言動を「表現の自由を侵害した」と認定したのです。道は控訴しましたが、こうした判決が、警察を萎縮させたとも考えられます。

安倍元総理
最後の別れ
TBS NEWS



国民の声受け 今秋「国葬」

岸田首相は14日、秋に安倍元首相の国葬を行うことを明らかにしました。日程を含め閣議で最終決定します。「国の内外から幅広く哀悼や追悼の意が寄せられている」として、多くの国民からの声を受けての判断であることも示しました。国葬には海外から元首級の要人の弔問も予定されます。戦後の国葬は昭和42年(1967年)の吉田茂元首相以来となります。

再来年にも 改憲発議へ

岸田文雄首相は11日の記者会見で、「(自民党総裁として)実現に向け国会での議論をリードしていく。全国各地で対話集会を開催するなど理解を得る活動に積極的に取り組む」と発言。スケジュールについては「できる限り早く発議に至る取り組みを進めていく」と明言しました。

一方、公明の山口那津男代表は「俗に改憲勢力と言われるのは、改憲を

否定しない」立場の数を合わせたもの。どういう合意を目指すかが大事だ」と牽制しています。



報道では、令和6年(2024年)の通常国会で、衆参両院での3分の2以上の賛成を得て「改正の発議」(国民への提案)を行うスケジュールが有力視されています。発議を受けて、60日以内(80日以内(国会の議決で決定))に国民投票が行われます。

なお、衆院の解散・総選挙がない限り、参院が令和7年夏に任期満了となるまでは国政選挙は予定されていません。

NHK
参議院選挙
2022特設サイト

